



<平成22年度文化発表会（模擬店）の風景>

同窓会だより

第10号

享栄学園
栄徳高等学校局
同窓会事務局

〒480-1103

愛知県愛知郡長久手町
大字岩作字三ヶ峯1-32

TEL 0561-62-5000

FAX 0561-62-5549

E-mail :

dousoukai@eitoku-h.ed.jp

▶▶ ご あ い さ つ ◀◀

母校の教育活動等にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございます。本年二月には三百四十三名を会員に迎え入れていただき、同窓会会員は九千三百名を超えました。



栄徳高等学校
校長 内田 憲男

在校生は、栄徳五訓を達成すべく、学習活動、部活動、生徒会活動に精力的に取り組んでいます。本年度は馬術部、ゴルフ部、陸上部がインターハイ全国大会に出場しました。また、千葉国体にはラグビー部が3名県チームに選ばれ、ゴルフ部は本校の生徒3名だけで県チームを作り出場しました。野球部は夏の甲子園県大会でベスト4になり、ラグビー部



栄徳高等学校同窓会
会長 越野 康男

に、岡部先生、鮑子先生、森下忠先生及び同窓会役員が居酒屋に集まり、久しぶりに親睦会を行いました。会の話題は、もっぱら先生方の若かりし日の武勇伝が中心となりましたが、楽しいひと時を過ごすことができました。

は花園出場を決める一歩手前まで勝ち進みました。両部ともあと一歩のところまで強くなっています。野球部やラグビー部の試合には、大勢の皆様が応援に駆けつけました。誠にありがとうございます。

今年度は各種行事が順調に実施され、特に文化発表会は二日間を実施しました。規模が拡大され、来場者が七百名以上と活気ある発表会ができました。来年度は是非ご来校いただき、後輩たちにお声をかけていただければ幸いです。さて、在校生にとって、社会での先輩方の活躍ほど励みになることはありません。同窓生の皆様は後輩の目標であり、雛形となるものです。先輩の影響は非常に大きいものです。皆様一人一人の人生においても、栄徳高校卒業の歴史は変わることはありません。また、

母校は皆様の心の故郷でもあります。母校の活躍が人生の励みになると思います。是非ご自分の人生を悔いしないものとする努力を惜しまないでください。そして、いつまでも本校同窓生として母校を愛し、後輩を慈しんでください。

二年後には享栄学園が創立百周年、本校が創立三十周年を迎えます。今後各種の記念行事が企画されることとなり、同窓生の皆様には多大なご支援、ご協力をお願いすることになると思います。同窓会の発展は母校の発展でもあります。皆様方の積極的なご参加をいただき、記念行事が意義あるものになりますよう祈念するものです。今後ともご支援、ご支持をお願いいたします。

しかし、ふと思い返せば、同窓会役員は一回生から十五回生まで、異なる世代で構成されています。世代間を超えて楽しめたのは、母校における高校生活を皆が共通して体験していたからであると感じました。年代や趣味が異なっても、母校を軸の一つにまとまることが同窓会の大きな魅力であると思います。さて、話は変わりますが、新聞のスポーツ欄を見ていると、たんに栄徳高校スポーツ系部活動の活躍が掲載されています（例えば野球部が第92回愛知県大会で準決勝まで勝ち進んだことなど）。また、受験サイトにおいて高等学校のランキングなどを見ると、数多くの学校群の中において母校が良好な位置づけにあることを確認できます。私たち卒業生にとって、母校の躍進はとても嬉しく思

います。さて、今年二月には、第26回の卒業式を迎えます。いまや大変多くの卒業生が社会へ巣立ち、多方面において活躍をしています。皆さんの活躍が社会において認知されれば「優秀な人材を輩出する学校」として母校の社会の評価に繋がります、ひいては「栄徳ブランド」を高めます。こうした側面から、私たちOBが母校の発展に貢献できればと考えています。

最後に、この「同窓会だより」は同窓会役員が平日の晩に母校へ参集し、役員会合を重ねる中で編集・刊行を続けております。私たち役員一同、微力ながら会の運営に励んでまいりたいと思っております。今後とも、皆さま方の御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

母校は今!! 教職員より

陸上競技部・全国への道

森浦 朗

卒業生の皆さん、多方面でご活躍のことと思います。

栄徳高校は、昭和58年にスタートし、今年で28年目を迎えました。進学でも、東大・京大・名古屋大学と後輩たちも頑張っています。

さて、今回は我が陸上競技部の今年のお話をします。我が部も28年目となり、生徒も頑張っております。

2月の日本ジュニア大阪室内陸上



60m走で全国5位に入るのを皮切りに、夏の沖縄インターハイへは3年生の浅野伸明選手が200mに出場しました。秋には同じく浅野選手が3年連続日本ジュニア・ユース選手権に出場し、準決勝まで進出しました。

次に、2年生の寺田健人選手は、日本ユース選手権に初出場ながらも100mで準決勝進出を成し遂げて、その一週間後の東海高校新人陸上大会では100m10秒77で3位、200m21秒68で3位とダブル入賞という快挙を成し遂げました。

この結果の陰にあるのは、チーム一丸となり、夕方遅くまで練習したチームメイト全員の総合力です。陸上競技は個人スポーツだと一般的に思われがちですが、実はチーム力が試される競技です。一人で走っていても決して速くなりません。仲間と一緒に競い、汗を流し、苦楽を共にしてこそ結果につながるのです。試合時に朝6時過ぎから場所取りをする人や、付き添いで一緒にアップから試合までの流れを共に走る人も必要です。そんな人目に出ないことを仲間が率先して行ってくれているのです。つまりチーム力とはチームメイト全員が皆協力してくれることです。陸上競技部は入学後に希望して入部してくる部員が多いですが、皆心

を一つにして全国大会での優勝・入賞を目指しております。

我が部で大切にしているのは「感謝の気持ちを持つ、気持ちよい挨拶をする、常に高い目標を持つ」この事を軸に、これからも一生懸命に全員で練習に取り組んでいきたいと思っています。OB・OGの皆様、栄徳高校をいつまでも応援してくださいますようによくお願いします。

伊東 利浩

♪古いアルバムめぐり♪は、名曲「涙そうそう」ですが、卒業生のみなさんの手元にもアルバムがありますよね。そう、卒業アルバムです。最近、そのアルバムを開いたことがありますか? クローゼットの奥深くにしまわれてませんか。一度、開いて高校生の自分と友だち、そして栄徳の先生方に会ってみませんか? 覚えていますか? 懐かしいと思いますよ。みなさんの時代の栄徳はどんな学校だったでしょうか?

こんにちは、伊東利浩です。社会科で世界史を担当していた私のことを覚えていらっしゃる方も多いと思います。みなさん元気ですか? 今、私は入試広報部という分掌に配属されて、日々中学校

や塾を廻り、中学校三年生に栄徳高校受験を紹介する仕事をしています。今、栄徳高校は「落ち着いた進学校」と中学生やその保護者の方たちに評価されています。みなさんが積み重ねてきた伝統のたまものと思います。そして中学校や塾の先生方の中には、栄徳を卒業した方もいて、熱いサポーターになってもらっています。時には、当時の話に花が咲くこともあって、心の中に温かいものがいっぱいになる幸せを感じます。「五訓」を覚えていますか? 社会に出て「五訓」の本当の良さを知った方も多いはずです。今も毎朝唱和していますよ。

「公立高校の授業料無償化」のことは、みなさんご存じだと思います。私立高校は、今、大変な状況に追い込まれてしまいました。入試広報部として大きな危機感を感じています。中学生もその保護者の方も皆、公立高校へ向いている状況で、栄徳高校も奮闘しています。その中で「熱心な学校」との評価もあって、その信頼を失わないようわれわれ教員は、日々研鑽を続け、栄徳高校の良さを世間にもっとアピールしていく決意をしています。

私の母校は3年前に廃校になりました。自分の卒業アルバムを見るとき、少し寂しい気持ちになります。みなさ

んをそんな気持ちにさせたくはありま
せん。これからもたくさんの卒業生を
輩出して行きたいと思っています。だ
からどうぞ卒業生のみなさん、栄徳を
大きくするためにも、機会があればみ
なさんの地域で栄徳の良さを大いに語
ってください。そして、お子様が高校
を選ぶ際には、是非母校である栄徳に
入れてくださいね！（笑）

熊澤 達子

私は、平成元年に本校に任じられ、
平成の年号とともに勤務の年数を数え
ることができません。今22年前を振り返
ってみると、公立高校から私学に来て
その生徒指導の徹底ぶりに驚いたこと
が思い出されます。様々な変遷はあっ
たものの、その源流は今でも引き継が
れ、開校28年を経た現在に成果が現れ
ているように思います。

この原稿を書く数週間前、2年生の
修学旅行に同行しましたが、「栄徳高
校学年団」として校外（社会）にでて、
そのマナーの良さ・規律正しさは他校
を抜き出ていることが示されていま
した。

最近二人の卒業生に出会いました。

一人は沖繩修学旅行で会うべくして
あったYさんです。彼女が沖繩の大学

へ進学し、「エイサー部」に入ったと
聞いた時から、沖繩へ行ったときには
後輩に見せてくれるよう約束をして2
年後、見事に演じてくれ、その実現に
感激しました。彼女の栄徳を愛する気
持ちと誠実さを本当に嬉しく思いました。

もう一人は、最近偶然入った店で出
会ったK君です。「失礼ですが、先生
ではありませんか」と問うてきた彼は、
7、8年前に卒業し、今はきちんとス
ーツを着こなして客に対応する立派な
社会人です。いろいろな話の中で、「ど
うして、あの時（高校時代）先生の言
うことを聞けなかったんだらうと思っ
ますよ」とつくづく漏らす言葉が印象
的でした。「学校を出て苦労してみ
るとわかるんですよ。あの先生の言葉
は我々のためだったんだあって、な
んせ先生は人生の先輩ですもんねえ
…」私達教員が生活指導と学習指導を
両輪として、常々努力してきているこ
とが、卒業生の中に生きているとい
う思いを持つことができました。

さて、そろそろ在校生が、3年間の
学習活動の努力の成果を見せる時にな
りました。大事なことは、高校時代に
学んだことを基礎に、社会の中での自
分の役割をみつめて生きていくことか
と思います。

皆さん、お元気で!!

〔平成22年度学校行事〕

4月6日	第28回入学式	9月17日	指導 体育大会
4月8日	1学期始業式	9月22日、23日	文化発表会
4月8日、9日	挨拶・身だしなみ重点 指導週間	10月4日～8日	挨拶・身だしなみ重点 指導週間
4月13日	救命講習（2年部活動生徒）	10月21日	進路説明会（2年保護者）
4月16日～18日	学習合宿（1年A組）	10月25日	進路ガイダンス（2年）
4月18日、19日	野外合宿（1年普通）	11月4日～12日	修学旅行（カナダ）
4月26日	交通安全講話	11月9日～12日	修学旅行（沖繩）
5月22日	PTA総会	11月12日	マナー講座（1年）
5月27日	進路説明会（3年保護者）	11月19日	進路説明会（1年保護者）
5月28日	マナー講座（1年）	11月22日	進路ガイダンス（1年）
5月31日	進路ガイダンス（3年）	12月16日～21日	保護者会
5月31日～6月4日	挨拶・身だしなみ 重点指導週間	12月22日	2学期終業式
6月1日	学園創立記念日	12月24日～28日	冬期特別補習、A・Z 組補習
6月15日、16日	球技大会	1月7日	3学期始業式
7月2日	大学・短大・専門学校ガイダ ンス	1月11日～14日	挨拶・身だしなみ重点 指導週間
7月12日	防災学習	1月11日～18日	ダニパーク高校来校
7月13日～16日	保護者会	1月15日、16日	大学入試センター試験
7月16日～8月3日	NZ研修	1月17日	高校生のための防犯教室（1 年）
7月20日	1学期終業式	2月18日	同窓会入会式・表彰状授与 式・卒業記念品授与式
7月21～8月5日	夏期特別補習、A・ Z組補習	2月19日	第26回卒業証書授与式
8月18日～20日	夏期特別補習、A・Z 組補習	3月10日	進路チャレンジ（2年）
8月23日～28日	学習合宿（A組）	3月14日、15日	文化スポーツ大会
8月23日～27日	学習合宿（Z組）	3月16日	芸術鑑賞会
9月1日	2学期始業式	3月17日	クリーンアップキャンペーン
9月1日～3日	挨拶・身だしなみ重点	3月18日	3学期終業式

同窓生だより

15回生

大橋 貴弘

皆さんこんにちは。第15回生の大橋貴弘と申します。栄徳高校を卒業して11年が経ちました。私の近況を報告します。

私は、高校を卒業後、福祉系の専門学校へ進学し、3年間、福祉を学びました。卒業後は、2つの病院勤務を経験しています。最初は精神科の病院で6年間勤務、現在の勤務先である知的障がい者の施設で勤務しています。

私は、今の職場を含め7年間、障がい者と接してきました。毎日大変なことも多いですが、反面、楽しいこともあり。一緒にどこかへ出かけたり、作業を行ったり、話したりすることで、一緒に苦勞、悲しみや楽しみを味わっています。お互いに理解し合うことを通して、共に成長する喜びを感じており、充実した毎日を送っています。

私が福祉の分野に進路を決めたのは、様々な体験と出会いがきっかけでした。福祉系専門学校では、積極的にボランティア活動に参加し、一泊二日の旅行やキャンプを数多く体験しました。また、自然災害の被害に遭った地域へ向向き、被災者の皆さんへ支援物資を運んだり、多くの方のお話を聞きました。出会った方々の様々な気持ちや笑顔に接し、私自身、生きる勇氣や希望をもらい、ボランティア活動にさらに力が入りました。

また、精神科病院での勤務時代、初めて精神障がい者と接した時、患者様の様子に正直戸惑いました。二見すると落ち着いた様子が、ほんの数秒で気持ちや言動が大きく変化する姿は、どう接していけばよいのか戸惑い、不安な気持ちになりました。その気持ちを抑えながら、患者様の様子を注意深く観察し、そ

の様子に合わせて対応を工夫する地道な努力を続けました。精神障がい者は悩みが深く、看護職の私は、患者様の話を聴くことがほとんどです。患者様は、私たちがスタッフに話を聞いてもらうことで気持ちが和らぎ、すっきりした様子を見せてくれました。この瞬間が私はとても嬉しく、働いていて良かったと充実感を得ることができました。

この6年間の精神科勤務により私自身、人との接し方が大きく変わり、どんな人とも話ができるようになり、大きな財産を得ることができたと感じています。

福祉職は、病氣や障がいを持つ人も健康な人も、お互いのあり方を認めあって生活をすすめる重要な職種です。現在、私がこの分野に進み、ある程度の実績を積み重ねることができているのは、私にとっては揺らぐことがない、とてもしっかりした土台があるからです。

それは、高校在学中、陸上部ひとすじで過ごした日々の中で培われた人間関係でした。顧問の先生の考えを理解し、チーム全体がまとまるためにはどうすればよいのかを考えたり、先輩後輩とのコミュニケーションや日々の挨拶、辛いことがあっても最後までやり遂げる信念を得たことです。高校時代に学んだこの姿勢は、現在の職種に活かされています。心から感謝しています。

職業人生が充実している中、私事で失礼ですが、今年4月に結婚をしました。相手は栄徳高校の同級生です。高校在学中から一緒に過ごすことが多く、高校卒業後の進学先も同じ専門学校を選び、多くの時間を共に過ごしてきました。就職後はお互いに色々ありましたが、同じ人生を歩むことを選びました。高校入学後からずっと一緒に時間を過ごした彼女と生きていく大きな喜びと責

任を感じながら、充実した毎日を送っています。

これから、より多くの患者様と出会い、また、私自身の新しい家族と出会うことで、自分の人生の幅が広がり、さらに充実感をあじわえるのではないかと、ワクワクした気持ちを感じています。私のことを深く理解してくれる彼女を一生大切にしながら、毎日を誠実な姿勢で過ごしていきたいと思います。

24回生

屋富祖 瑠璃

みなさんこんにちは、栄徳高校卒業生の屋富祖瑠璃です。現在は沖縄大学人文学部こども文化学科に在籍しています。

私は今、本大学で教職を学びながら、一方でエイサーに没頭しています。全く接点がないように思われるかもしれませんが、実は相互に影響を与えていたりします。例えば教職課程で培う指導力は、エイサーの後輩に踊りを教える時に活かされ、エイサーで身につき表現力は、授業内容を生徒にわかりやすく伝えるのに役立ったりします。これらに共通する、自分もつ何かを相手に伝え理解してもらうことに、私はやりがいを感じています。

私が大学で大切にしていることは、今、話した「やりがい」をもつことと、あと一つは多くの人と「関わり」を持つこと。学科仲間や先輩との関わりに限らず、他学校と交流を



持ったり部に入ったりすることで、私の視野や行動範囲はかなり広がりました。今では、学外活動としてエイサー部で東京遠征に行ったり、学内では障がい学生の受講をサポートしたりと様々な活動をしています。得意なイラストで学内冊子の表紙や宣伝用ポスターの絵を描いたりもしています。顔も広くなるので廊下に出るたび知り合いに会う等、常に身のまわりで何かが起き続けて退屈しない、充実した学生生活を送っています。

これから自分が何をしたいか、何を目指しているのが明確でもそうでなくても、まずは自ら「行動」し、「変化」を起こしてみるといいかもしれません。

25回生

余語 愛実



<前列右が私です>

私は今、原の美容室で美容師をしています。毎日何かと大変ですが、先輩達も優しく教えてくれるので、仕事を楽しくやっています。行事があるなど、皆で仮装したりして楽しみも沢山あります。

お客さんと話したり、カラーしたり、お店に来るのが楽しみだと言って言ってくれるお客様のために毎日頑張っています。私は高校の3年間の中で、美容師になろうと思いましたが、初めは美容とは全く違う事がしたかったというのが事実なんです。が、気付いてみたら、やっぱり美容に関わる仕事がいいと思って美容の専門学校に行きました。

高校3年間はいろいろな事があって、泣いたり笑ったり、沢山ありました。

その頃の友達は今でも支えてくれ、相談にも乗ってくれる、私にとって大切な存在です。

正直、栄徳高校での3年間は厳しくて嫌だと思っていた時期もありましたが、今では厳しくしてくれて良かったと思います。

今、私はまだカラーまでしか出来ないですが、今後もっと努力をして、沢山の人を綺麗にしてあげられるように頑張りたいと思っています。

20回生
私にとつての高校生活

近藤 龍一

父を意識しなかったといえ、それは嘘になる。中学時代に友人に誘われていったゴルフに魅了され、「ゴルフをやりたいなら栄徳へ来い」と父に言われてから、私のゴルフ人生が始まった。先輩から「近藤先生の息子」という目で見られたこともあったが、もちろんメリットもあった。同じことの繰り返しのように思われるゴルフ漬けの毎日。練習が辛くないはずがない。今振り返ってみても、私の高校3年間は「ゴルフの練習」と「良い生徒でいること」で過ぎて行った。しかし、後悔は全くしていない。今、ゴルフが継続できているのも、この3年間があったからである。

部活は一生懸命でも勉強はしないというタイプの生徒にはなりたくなかった。また、その逆は尚更である。これに関しては「意識したわけ」でも「演じたわけ」でもない。部活

に対して一生懸命になったからこそ、勉強もそれにつられて「自然に」全力で取り組むことができたのだと思う。高校卒業後、同志社大学に進学し、二年次に関西学生ゴルフ選手権において優勝できたことが、数ある成績の中で一番嬉しかった。また、4年次に全日本学生選手権において2位という成績を残せたことも誇りである。

高校で体得した「文武両道の精神」が大学でも活かされ、この成績につながったと今振り返ると思える。2010年、プロテストに合格し、晴れて栄徳高校初の男子プロゴルファーになったことは私の誇りである。その時、父と同時に母校である栄徳高校を意識しなかったといえ、それも嘘になる。母校に対して、父に対して、とりあえずではあるが一つの恩返しできたと考えている。

ゴルフは「紳士のスポーツ」であり、挨拶が出来て当たり前の世界である。このような世界に身を置いて、当たり前以上の相手に対する「心を込めた挨拶」ができるのは、ゴルフ技術を除いては栄徳から得た一番重要なものだと思自負している。今の目標は「ツアー優勝」である。そのためにやらないといけないことは沢山あるが、重視しているのは「スキルアップのための基礎練習」である。

この「基礎を重視する精神」も高校在学中に学んだ大切なことの1つである。



地下鉄「栄」駅、8番出口より徒歩5分の好立地

2009年12月 全室リニューアル済み

<http://www.garland-hotel.co.jp>
master@garland-hotel.co.jp
 第13回生 佐枝 弘章 (卓球部)



NAGOYA GARLAND HOTEL
 名古屋ガーランドホテル

〒460-0008 名古屋市中区栄 3-9-6
 TEL. 052-242-6363

母校は今II学校行事から

カナダ修学旅行

2年A組 西川 泰介

ホームステイは僕にとって初めての経験だった。ウエルカムパーティーでホストファミリーと対面したとき、当然僕はかなり緊張していた。でも、彼らがとても優しく接してくれたので、僕の緊張はがだいに薄れていった。

僕のホテルファミリーは、夫婦と子ども3人（女の子1人、男の子2人）の5人家族で、さらに留学生が1人いた。子どもは3人とも小学生くらいの子で、大人よりゆつくり話すので、とても話しやすかった。

土曜日の朝、僕は折り紙を折った。彼らがとても喜んでくれたので、僕はうれしかった。一番心に残っているのは、日曜日の昼に、子ども3人と僕との4人でハイキングをしたことだ。

途中で疲れて座り込んでしまった一番下の男の子を、一番上の女の子が助けてあげる様子を見て、僕は温かい気持ちになった。頂上について、僕はビクトリアを一望した。それは絶景だった。そこでしばらく話して、帰った。頂上で彼らと撮った写真は、今僕の携帯電話の待ち受け画面に設定してある。



沖縄修学旅行

2年乙組 斉藤 成美

3泊4日を通して今回の沖縄修学旅行は、とても充実したもので、一生の思い出に残る素敵な旅行になったと思います。

沖縄には独特の文化や雰囲気があり、そこで見たり聞いたり味わったりすることのできないものに触れて、沖縄という所を肌で感じることができました。

初めての経験が多く、そこから学ぶことも多かったありました。

中でも印象良かったのは鳥袋淑子さんの講話です。沖縄戦でひめゆり学徒隊として怪我をした軍人の手当をしていた鳥袋さんは、本当にたくさん

暗い壕の中で手足の無くなった人の包帯を換えたり、空から爆弾が降ってくる中、水を汲みに行ったりと、つらく苦しかった日々、水を震える声で語って下さいました。このお話には大きな衝撃を受け、今、自分が平和な時代に生きていて、とても恵まれていることを実感しました。

戦争中のつらい過去は、鳥袋さんにとって思い出したくないことに違いありませんが、平和を願う心からその過去を話してくださったことにとても感謝しています。

また、3日目の夜のエイサー体験も大変いい思い出になりました。栄徳高校の卒業生である屋富瑠璃先輩の力強い演技に感動しました。最後には太鼓と三線の音に合わせてみんな踊り、とても盛り上がり、楽しい時間になりました。

他にも心に残るたくさん経験ができ、そして無事に帰ってきました。このことをうれしく思っています。私たちを支えてくれた先生方、鳥袋さん、屋富先輩や沖縄で出会った多くの人々、そして一緒に今回の修学旅行を作り上げ、盛り上げてくれた2年生のみんなに感謝したいです。



母校は今II部活動から

ラグビー部

3年4組 川崎 康隆

私は、この3年間ラグビーを通じて様々なことを学びましたが、その中でも自己犠牲ということが一番学びました。

自己犠牲、すなわち自分を殺し味方を活かすこと。ラグビーでいえば、危険を覚悟でボールを繋ぐことです。野球やサッカーなど、どんなスポーツでも当たり前に行われている言葉ですが、ラグビーに一番合っている言葉だと私は思います。自分の体よりもボールの確保を優先したり、チームのために相手にぶつかっていく。どれもこれも自己犠牲の精神です。

学校の勉強も社会に出れば大事なことだと思いますが、私はそれと同等なくらい部活で学んだことは大きいと思います。

私は、この3年間で辛い練習とどんな逆境にも耐え抜く忍耐力などの精神面を磨くことができ、挨拶の仕方から敬語の使い方だけでなく、周りに対しても、自分を磨き上げることができました。また、顧問の先生も、自分を磨き上げることができ

ました。また、顧問の先生も、自分を磨き上げることができ、熱い指導や、一緒に苦楽を共にしてきた仲間のおかげで私はプレーヤーとしてだけではなく、人として大きく成長することができたと思います。

これから大学に進学してからも、自己犠牲の精神を忘れていろいろな事に取り組んでいきたいと思っています。



野球部

主将 3年5組 大河内 将

僕はこの野球部の仲間に出会えて本当に良かった。この2年半毎日野球部という団体で辛いことも楽しいことも分か合ってきた。思えば入学前から僕は練習に参加し、みんなより早く栄徳の仲間になった。

1年生のころは高校野球の厳しさを、先輩の尊重さ、なにより挨拶の大切さを学ばせていただいた。先輩は本当に厳しかった。厳しすぎていやになることもあった。しかし辛いときはみんなが励まし、そして支えあってくれた。2年生になり、レギュラーの座を手に入れた奴もいた。し

かし、チャンスをもたえず落ち込む奴もいた。みんなの中で差ができてしまい、一度僕らはバラバラになってしまったときもあった。しかし、先輩がいなくなり、最上級生になったとき、3年生全員でベンチを埋め、必ず甲子園へ出場しよう。という目標ができ、今までにない一体感がうまれた。

僕らが目の色を変えて練習に取り組み始めたのを見て、背中を追うようにして後輩たちもついてきてくれた。新チーム結成直後は二回戦負けという情けない成績だった僕らも、辛い冬を越え春にはベスト8というまずまずの成績を残すことができた。

春に自信をつけることができた僕らは、さら

に上を目指せるという目標ではなく確信を持って。チームとしても個人個人でも、一回りも二回りも大きく成長できた僕らには、最後の夏という舞台は最高のパフォーマンスの場所だった。3年生全員でベンチは埋められなかったが、応援団長を中心に外れてしまったメンバーもベンチの僕らの勝利を信じて声を嗷らして見守ってくれた。そして自分たちは想像もできないような力を最後まで発揮することができ、逆転勝ちを繰り返した。ベスト4という結果は満足できなかったが、この仲間、甲子園、という目標に向かって一丸になれたことは、満足なんて言葉じゃ表せないくらい夢の時間だった。

そして何よりも栄徳の野球部を支えてくださった方々、この夏は本当にありがとうございました。今度こそ、後輩たちが夏の暑さに負けない熱い戦いを見せてくれて、甲子園という夢の舞台へ必ず連れて行ってくれると思うので、まだまだ栄徳野球部のご支援よろしくお願ひいたします。



部活動結果報告

〔陸上競技部〕

日本ジュニア室内陸上大会
60m全国5位 浅野 伸明
全国高等学校総合体育大会
200m予選3位 浅野 伸明
東海上競技選手権大会
200m4位 浅野 伸明
東海高校新人陸上競技選手権大会
100m 3位
200m 3位 寺田 健人
日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会
ユースの部100m準決勝6位
寺田 健人
ジュニアの部200m準決勝8位
浅野 伸明
愛知県私立陸上競技大会
200m3位 寺田 健人
100m女子3位 古谷 友里絵
800m4位 高木 萌
愛知県高校新人陸上競技大会
100m2位
200m優勝 寺田 健人

全尾張高等学校野球選手権尾東大会
3位
第63回愛知県高等学校野球選手権大会
出場
〔ラグビー部〕
第65回国民体育大会ラグビー競技
愛知県代表として出場 近藤 直季
荒武 後智 川崎 康隆
平成22年度 全国高校ラグビー愛知
県大会 準優勝
〔卓球部〕
私立祭卓球大会
団体3位
県下卓球新人大会
シングルス優勝 藤田 聖名
ダブルス準優勝 藤田 聖名 前田
慶太郎
東海卓球選手権大会
シングルス予選通過 藤田 聖名
一般シングルス予選通過 谷川 大和
〔愛知県高等学校新人体育大会名古屋
屋北支部予選〕
ソフト部 3位
男子バレー部 4位

教職員異動

平成22年度の本校教職員の異動について報告いたします。

〔新任の教職員〕

木村 久和 先生 (副校長)
佐々木 彰 先生 (数学)
伊藤 義孝 先生 (国語)

〔退職された教職員〕

竹橋 義明 先生 (副校長)
西川 不二夫 先生 (事務)
新川 由香 先生 (英語)
田岡 史吉 先生 (英語)

平成21年度栄徳高等学校同窓会決算報告

収支決算書 (自H21.4.1~至22.3.31) (単位:円)

Table with financial data for the 21st fiscal year, including income and expense sections with columns for item, amount, and notes.

平成22年 4月12日 以上の通り報告いたします。
平成22年 5月 7日 監査の結果正確であることを認めます。
会 計 保母 康雄 渡邊 妙穂
加納 慎 市川 浩子
神藤 晴信

平成22年度栄徳高等学校同窓会予算 (案)

(単位:円)

Table with financial data for the 22nd fiscal year budget, including income and expense sections with columns for item, amount, and notes.

同窓会事務局からのお知らせ

同窓会からのお知らせの一割が転居・結婚等にもなう住所変更のため戻ってきております。同窓生で住所、お名前の変わられた方、是非ご連絡をお願いします。

御注意

最近、栄徳高校の同窓会や事務局などの名を借りて、同窓生の住所、携帯電話、生年月日などの個人情報との問い合わせの電話が頻繁にかかってくるようです。同窓会や事務局ではそのような問い合わせは一切しておりません。同窓会・事務局とはまったく関係ありませんので、十分にご注意ください。

広告の募集について

前号より会員による広告欄を設けました。趣旨にご賛同いただければ事務局までご連絡ください。

編・集・後・記

お陰様で同窓会だより第10号も無事発行することができました。変革の時代にあつて残すべきもの、壊すべきもの、築くべきもの、見極めを、今を生きる我々に求められている気がします。(藤田)

